

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	18187
課題名	長時間手術後の麻酔薬の種類と覚醒時間に関する検討
研究期間	倫理委員会承認日 ～ 2023年 12月 1日
研究の対象	2011年4月～2018年12月に当院で麻酔時間10時間以上の長時間手術を受けた患者さん
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：覚醒時間、麻酔薬、年齢、性別、BMI、肝機能、腎機能、体温、手術の種類等） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他（ ）
研究の意義、目的	<p>長時間全身麻酔薬の投与を受けると体内に麻酔薬が蓄積するため麻酔からの覚醒に時間がかかることが広く知られています。また、覚醒が悪いと術後合併症が増加することがわかっています。これまでに覚醒遅延に関わりうる因子として麻酔薬の種類、年齢、性別、肥満度、肝臓腎臓の機能・体温などが個別に検討されてきました。しかしながら、これら全ての因子を全て網羅した研究はなされておらず、どの因子がどの程度影響するかは明らかではありません。本研究によって覚醒遅延しそうな患者さんをあらかじめ予測し、覚醒遅延を避けるために推奨される麻酔薬の選択ができるようになると考えられます。</p>
研究の方法	<p>電子診療録に保存されている2011年以降のデータから麻酔時間10時間以上となった症例を検索し、麻酔薬の投与をやめてから覚醒までの時間、使用した麻酔薬の種類、年齢、性別、肥満度、肝臓腎臓の機能・体温を調査します。統計的手法を用いてこれら調査したどの因子が覚醒時間に強く影響するかを調べます。</p>
その他	<p>本研究は企業や団体との関わりはなく物資・資金などの提供は受けておりません。</p>
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：  研究責任者  旭川医科大学 麻酔・蘇生学講座 鷹架 健一  住所：北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号  電話：0166-68-2583</p>

